



主要道路での除草作業は、多数の会員を動員する大きな事業

狭山の元気 発見

躍進

いきいき狭山人
びと

パソコン教室



英会話教室

今年で創立25年の節目 豊かな経験と実績を活かして 「元気な狭山」の創造に大きく貢献したい

会員を講師として開催される各種教室は、受講者に大人気

理事長の永峰淳さんは、シルバー人材センターにはいくつかの特徴がありますが、民間企業との大きな違いは、利潤を第一の目標とせず、会員相互が「元気」で「仲良く」、

狭山市シルバー人材センターは昭和57年に創設され、今年で25年の節目を迎えました。本市では、センターの設立は県内でも早く、当初から設立にかかわった人たちは、今日の高齢化社会を予測し、熱心に勉強会などを開催して、確かな受け皿づくりに向け、活発に活動してきました。現在では、経営規模も大きくなり、会員数は1千300名を超え、平成18年度事業規模は、収入で約5億6千600万円となつています。主な事業は、植木のせん定、芝刈り、工場敷地の除草、企業での補助業務などで、多岐にわたる業務を、会員間の相互協力のものと、積極的に事業展開を行っています。

さらに、永峰さんは会に参加したおかげで、体調が良くなり、健康的にも精神的にも

「満足した生活を続けることを通じて、社会貢献すること」を目的にしていることです。また、団体の運営には国と市からの補助金が大変重要な財源となっています」とセンターの立場を説明します。

いわゆる団塊の世代と呼ばれる皆さんが、今年から定年を迎え地域に戻つてこられます。狭山市でも今年からの3年間で、約9千人以上の方が60歳を迎えます。「高齢者の皆さんは、高い知識と豊かな経験を持ち合わせています。その力を、ぜひセンターで活かしていただきたいと思えます。高齢者を一くりにとらえることはできません。それぞれの人の歩んできた道も立場も違い、会員の適正や希望を把握して一番その人に合った仕事を提供することに努めています」。

現在の力を入れていることは、まず多くの人に会員になつてもらふことです。また新しい職種を開拓して、さまざまな技能をもつ人たちに業務選択の範囲を拡大することも重大な課題です。

センターでは、今後受動的に仕事を請負うだけでなく、会員の豊富な技能を活かして、仕事をお客様に提案できるように形態の運営を考えています。シルバー人材センターの新しいビジネスモデル発展が大いに期待されます。



今年度から理事長に就任した永峰淳さん

オピニオン

日常生活での助け合いは 災害時の大きな力に



沢田登美恵さん
(狭山台在住)

今回の総合防災訓練で初めて心臓マッサージを体験しました。消防署職員の大変丁寧で分かりやすい説明で良かったと思います。いざというとき、自分が何をしたら良いのかを実際に体験できたので、いつか今日の経験が役に立つときがきたら、率先して実行してみようという気持ちになりました。

今後、ますます高齢化社会になっていくと思いますが、大きな災害が発生した場合、高齢者が避難したり、日常生活を取り戻すのは、個人の力で行うのは不可能だと思います。私たちみんなでふだんからお互いに助け合って生活していくことが大切だと実感しています。先日も、車いすを利用している方が、横断歩道を渡るのに苦労していたので、後ろから押してお手伝いして大変感謝されました。人と人がお互いに助け合うことは、このようなほんの小さなことの積み重ねだと考えています。大災害時の人命救助は大変重大な仕事ですが、私は毎日、近所の人々が小さなことを手伝ったり、助け合ったりすることを実践する延長上にあると思います。改めて、日常生活で助け合うことが、災害時に大きな力となると確信しました。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

高齢化が進む社会状況の中で、地域での協力体制の構築が一層図れるよう、市民一人ひとりが平時より災害に対する知識を身につけ、自ら何ができるかを考え、いざというときに落ち着いて的確な行動を取ることが重要です。今後も、安否確認訓練などを取り入れた防災訓練を実施しますので、地域住民の皆さんの積極的な参加をお願いします。

担当 防災課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

私たちの会は、平成14年に発足し、中央公民館で活動しています。現在、会員は11名ですが、3歳児から中学2年生まで、幅広い年齢層が学んでいます。歌舞伎踊りは個々に違った役割があるため、子ども達は個別に指導を受けて、体で覚える努力を続けています。同時に、あいさつで始まり、感謝で終わる基本的な礼儀作法も、子ども達が自然に身につくよう指導し、日本の伝統芸能を通じた和 문화への理解を深めています。

坂東流師範の指導のもと、毎年、桜まつりや市民芸術祭などの舞台で、子ども達は歌舞伎踊りを披露しています。色鮮やかな浴衣を身にまとった子ども達は、いざ演技を始めれば、もう立派なおとなのしぐさで見違えるようです。

問合せ山口由記さんへ
2953 2878

私の宝物...

祖父のぬくもりと瓢箪



柴田武夫さん
(入間川在住)

幼いころ、琵琶湖の近くに住んでいた私は、祖父とよく散歩に出かけたものです。戦時中の日本はまだ豊かではなかった時代。祖父の腰には、ひょうたんでできた手作り水筒とおちよこがいつも下がっていました。のどが渇くとそれで湧き水を飲ませてもらったり、時よりひょうたんにはお酒が入



子どもの私の目線にはいつもこのひょうたんがありました

っていて、祖父は美味しそうに飲んでいました。あの遠い昔の日々と、私の手を引く祖父のぬくもりが思い出される大切な宝物です。

今回は北入曾在住の知人を紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.313



本番の舞台は緊張するけど、とっても楽しく踊れます

子ども歌舞伎踊り教室